

CONTENTS ◆5月のつどい ◆おくさわ今と昔 ◆奥沢の歴史を訪ねて
◆ポタニカルアート (入門編) 講習会報告 ◆活動報告 ◆会からのお知らせ

5月のつどい

総会・ミニ園遊会報告

今年の総会・ミニ園遊会はまだ暑さの来ない5月15日(日)に五月晴れの下、シェア奥沢で行われました。

総会：当日の出席者は、本人出席33名(委任状105名で総会は成立)でいつもより多い出席を頂きました。例年通り2015年度の活動報告及び収支決算と2016年度の活動計画、収支予算が満場一致で承認されました。

報告事項として、小畑高文さん、狛雅子さんお二人を新しい理事として、全会一致で選んだこと報告しました。

堀内代表から、「みどりの街づくりガイド(仮称)」制作について計画の説明がありました。

「景観木」や「街並み選奨」といった外から見える高木や、住宅と樹木や生垣の組合せのような比較的大きな庭を推奨する仕組みを持っていましたが、街の調査をしたところ、小さな住宅地になっても、道路と家の外壁の間の僅かな空地に、花や木を植えたり、プランターをうまく配置したりして、みどりを育てておられるお家が多いことに気が付きました。

これを「開かれた庭(仮称)」と呼び、地域の方々が自薦他薦で選び、庭作りの交流を通じた街のコミュニケーションを推進する計画で、パンフを制作して地域に配布し、奥沢に住みたい方や事業者に

知って頂こうとしています。

ミニ園遊会：総会の後、例によって木陰の豊かな庭に用意したパラソルの下で、椅子にお座り頂き、お茶とお菓子を頂きながら歓談しました。

出店して頂いた、おこわやお菓子はたちまち売り切れ、その場で食べながら交流する方もおられ、汁物があつたら良いなという声も聴きました。来年の課題です。

例年の通りに仕入れた花苗は、時期が良かったためか勢よく咲く花が会場に彩を添えていました。持込苗については、今年は丹精こめて栽培された苗や珍しい貴重な苗(キンカチャ等)、また今回引越されることになった方が提供された愛着のこもった苗木等多くの方々から提供を受け、更に多肉植物栽培の紹介PRもあり、土とみどりを守る会らしい苗交換の場となりました。従来の持込苗はスタッフや会員が種から育てたり、挿し芽した小さなポット苗が主体で、値段も30円均一にしていたのですが、今後は丹精された苗には敬意を表し適切な価格設定を考えたいと思います。

おこわやお菓子の出店に参加頂いた方、花苗の販売や交換にご協力頂いたボランティア、花苗を提供されたの方々、本当にありがとうございました。(鈴木)



(総会風景)



(ミニ園遊会)

おくさわ今と昔

(このシリーズでは奥沢に長くお住まいの方、新しく移ってきた方々など、毎回2人の住民の方が登場し、この街にちなんだエピソードを語っていただきます。)

大谷修二さんを偲ぶ

「父の思い出思い出」

奥沢2丁目 福田敦子

この度、父のことを書かせて頂くことになり恐縮しております。

3才より91才まで、何年かの地方勤務はあったものの奥沢の変貌を見てきた父は、子供の頃の奥沢の様子をよく話してくれ、忘れない内にと本にしたのだと思います。

父が本の形にした4冊程を渡されて感想を求められたものの、真剣に読んでいなかったので大したこととも言えず、それが、鈴木仁様より「奥沢物語」を大切に読んで下さっている方がいらっしやると聞き、父がどれ程喜んだかとうれしくなりました。

父は、自分の子を含め人様よりの厚意を受けたがらないのですが、とても親切な人で、それが時には有難迷惑なこともありました。ところが父の死を知って来て下さった方で、父の話がとてもおもしろく為になったと涙ぐまれ、そう伺い親不孝の心が痛みました。

父は、八百屋さんに行っっては必要のない物まで買ってくるのですが、酒匂さんより、父は「八幡小の後輩からもらう訳にいかない」と釣銭を取らないので、酒匂さんと二人でピタリとなるまで品物を運ぶのが常で、帰り際には必ず「八幡小出身者は頭が良い」と笑っていたそうです。ロアールさんのケーキとやぶ茂さんの天ざるが好物で、枝を切るために木登りをして、道行く人から「ご主人お元気ですね」と言われるのを喜び、保育園児が蚊に刺されては大変とせっせと草取りをする、そんな晩年でした。

四月にひ孫が生まれ、その帰宅を待って抱いてうれしそうに笑い、もう良いだろうというように、その五日後に旅立ちました。「ありがとう、皆さんありがとう」という言葉が最後でした。



(奥沢物語(1994.4))

「奥沢物語について」

奥沢2丁目 鈴木 仁(事務局長)

大谷修二さんが亡くなったとお聞きしたとき、もう一度お会いしておけばよかったと悔やみました。大谷さんとお会いしたのは、2007年8月に事務局長の故柳島尚子さんと、奥沢の歴史調査でお話を聞きに伺った時でした。当時会では地域の古老を訪ね奥沢の歴史資料や昔の地図を作ろうとしていました。

特に昭和5から10年頃の街の様子をお聞きしましたが、小学生の頃を実に詳細に記憶しておられたのには驚いたものです。家や店の名前だけでなく、住宅開発や海軍村の始まり等当時の奥沢の歴史状況も教えてくれました。アセチレンランプの明かりとその独特の臭いが立ち込めた奥沢銀座通りの弁天市の賑わいを手に取るように生々しくお話されたのが思い出されます。また目黒線開通直後の住宅開発に、湧き水の豊かな土地柄を生かした井戸堀のために、土管屋さんや、ポンプ屋さんが奥沢駅周辺に先ずできたそうです。また奥沢の駅前には車屋の「しん」さんがいて海軍村を往復していたそうです。

大谷さんは八幡小学校の卒業生で、当時校庭にあった「誉の桜」を見ながら育った方です。小生の頃にもあり、太く枝を横に張ったどっしりとした姿を覚えています。「誉の桜」は、日清と日露2回の戦争に徴兵され、命からがら帰国した鈴木仙太郎さんが、記念に植樹し命名されそうです。しかしこの桜は、新校舎建設で昭和33年に切られしまいました。

この話を聞いた大谷さんはひどくショックを受けたそうで、「奥沢物語」を書くきっかけになったそうです。「奥沢物語」は、奥沢神社編では吉良氏、大平氏や鶯草伝説、奥沢の街編では、住人、子供の様子や、鉄道等の詳細な資料や聞き取りによる歴史調査をベースにした奥沢の形成と近代化の物語と言えます。

近代化の過程で地域固有の文化や教育を捨ててきた社会に強い憤りと悲しみをおぼえ筆を執った著者の、愛する奥沢への切ない気持ちが胸に迫りました。

奥沢の歴史を訪ねて XIV

奥沢史跡巡り① 奥沢郷土史研究家 (i)

奥沢には数年前迄、世田谷区誌研究会とは別に奥沢郷土研究会があった。会長は奥沢の歴史に大変造詣の深い4丁目の鈴木宗氏で、区誌研の理事や区教委文化財指導員をしており、奥沢出張所の後援のもとに何度か奥沢の史跡巡りを実践していたようである。

まぢめぐりの栞には、浅野浩氏、甲府方鈴夫氏、矢花静真氏、石井一正氏、野口末吉氏(講師)などが史料提供をしていた。その栞は奥沢出張所の2階コーナーにまだ保存されているかもしれない。

鈴木宗氏は奥沢神社の氏子総代もしており、奥沢神社史は鈴木宗氏が編集に当たられたようである。

それらとは別に大谷修二氏により『奥沢物語』が書かれている。お目にかかれないうちに奥沢の歴史に詳しい方々が亡くなられていって残念である。

その他公的機関や銀行や商店街等の各企業出版物には色々載せられているようである。その中で特に取り上げておきたいのは、奥沢台遺跡と諏訪山遺跡発掘報告書と奥沢の民俗文化について詳細に調べた報告書である。現在でも埋蔵文化財地域の新築時には事前の発掘調査が義務付けられているので、急なことが多いが見つけたら発掘現場を観察可能である。私も1ヶ月前築地界隈を散策の実地踏査中、発掘調査公開があるのを知り、翌日暑さの中中央区湊に飛んで行った。現場は江戸の町、鉄砲洲と呼ばれた町人町と武家地の境で、当時の石垣やトイレの糞等が掘り出されていた。当時の瓦の破片を頂いてきた。

(私たちの住むまち奥沢の成り立ちはどうだったのでしょうか、調査結果をシリーズで紹介します。)

縄文の諏訪山遺跡は諏訪山通りの両側に存在し、特に旧草津湯(現マンション)側の四つ角近くに多い。

また、各史跡毎の簡単な紹介は、『世田谷ふるさとめぐり てくたくぶっく 九品仏コース』に32箇所が掲載されている。昭和59年12月に発足した「玉川地団協」が九品仏東コース17箇所に石標を設置し、子どもたちにわが町ふるさと意識を育て、郷土愛と連帯感を高めることをめざしたもので、地域の方々の手で募金運動が進められ、相談、先行、検討を重ね、建てられたものだそうである(「文集奥沢・東玉川」大橋茂弘氏談)。以前、世田谷在住の牟田悌三氏がお歳をめされ、会長をしていた会を解散したのをたまたまテレビでみたが、あの会と同じ会ではないであろうか?

玉川支所の地域振興係等で販売していたこの小冊子を持って各史跡に建っている石標の文字を鉛筆で拓本にとり、たくさん集めると記念品が貰えるというシステムがあった。多分現在はもう実施されていないと思われるが、ぜひ子どもたちにやらせたい。

石標は立派なもので、どこの場所でも現存していると思うが、その為か他区に比べて世田谷区は説明板の設置が少ないようである。最近歴史散策で文京区、台東区、中央区…とよく訪れているが、どうも城南3区は少ないように感じている。

ここでは今後、祠、稲荷、神社、弁財天、庚申塚、馬頭観音、寺社、渡し、古道、遺跡等から選んで紹介していく予定である。(赤松)

奥沢郷土史の例 (大谷修二「奥沢物語」は2ページ参照)



(郷土史『おくさわ』奥澤神社発行1979.9)



(民俗調査5次報告世田谷区教育委員会発行1985.3.9)



(沿線コミュニティ誌「どうよこ沿線NO.34」1986.7.10)



(文集奥沢東玉川)

「ボタニカルアート（入門編）講習会」報告

講習会は4回目を迎え、6月4日（土）シェア奥沢で開催されました。テーマは再び「バラに始まりバラに終わる」でした。今回の参加者は、スタッフを含め10名でしたが、4才の女の子もお母さんと一緒に出席し、和気あいあいの講習でした。少人数のため講師の千葉雅子さんの指導も細かく受ける事が出来今までで最も充実した講習になりました。



講習風景（千葉講師ご提供）



作品例

例によって制作後、スタッフの撮影した各作品の写真をスライドで映し先生の講評と、お茶とお菓子を頂きながら交流の時間を過ごしました。

普段は庭で、木や草花の世話はするものの、花の細かい部分まで1時間も睨めっこすることのない小生にとっては、みどりと向き合う貴重な経験になりました。

本講習会は2014年から、シェア奥沢で千葉講師が実施している本格講座の入門編からスタートしたもので、本格講座へ進んだ方も何人かおられ、それなりの役割は果たしたと思われまます。出席者が頭打ちの傾向にあり、今後の継続について関係者とご相談する時期に来た感じがします。（鈴木）

活動報告

- 今回のまぢめぐりの下見は6月19日（日）に、街づくり活動で有名な成城と歴史豊かな佇まいの喜多見の街を下見しました。慣れない地域の曲がりくねった道に時間を取られ、対照的な両方の街を午前中に巡るのは難しいかと思われましたが、道に迷わなければやや長いものの可能と判断しました。
- 赤松理事が風景づくり交流会（6/25（土））に出席しました。今年も区民の方に「地域風景資産」を知って頂くための企画が紹介されました。
- 7月21日（木）に堀内代表と鈴木が世田谷区都市デザイン課を訪れ、「界わい形成地区指定」の最近の状況をお聞きしました。当会が進めている「みどりの街づくりガイド（仮称）」の説明をしました。
- 「みどりの街づくりガイド（仮称）」では、小さい空を生かした外から見える「開かれた庭（仮称）」を通じた地域のコミュニケーションの推進を計画しています。このためには従来奥沢2丁目主体の活動から、地域を拡大することが課題になってきています。この度奥沢4丁目住民グループの活動推進のご提案を鶴原さん、松田さん頂き試行することと致しました。

会からのお知らせ

- 今年のまぢめぐりは、9月24日（土）（雨天の時は25日（日））に行います。今回は少し歩行距離が長くなりますが、成城と喜多見を訪ねます。成城は近代の街づくりで、隣の喜多見は歴史の景観で、奥沢と似ているところが多く、現在検討中の「みどりの街づくりガイド（仮称）」の参考になると思えます。集合は9時、自由が丘駅南口です（同封のチラシご参照）。
- フラワーアレンジメント講習会を、10月16日（日）午後1時半から奥沢東地区会館で開催します。テーマは「空間をいかした背高のっぼとずんぐりめ

のコンビアレンジ」です（同封のチラシご参照）。

- 土とみどりを守る会はいつでも新会員を募集しています。会の活動を支える会費は1口1,000円です。どうぞ協力をお願い致します。入会のご相談は下記へお寄せ下さい。

土とみどりを守る会 連絡先

世田谷区奥沢 2-32-11 堀内正弘 5701-5901

世田谷区奥沢 2-18-6 鈴木 仁 3723-6659

世田谷区奥沢 2-41-2 玉置敬子 3724-1077

ホームページ：<http://tsuchimidori.net>

e-mail：info@tsuchimidori.net